

子どもの療養環境におけるヘルスケアアートの実践とその意義

高野 真悟

1. はじめに

医療施設や福祉施設では殺風景な施設的环境をより良くするために絵画や写真などのアート作品の展示や楽器の演奏などが一般的に行われている。近年ではこれらのアートに加え、壁画などのアートやインテリアデザインにより施設のネガティブなイメージを払拭するような事例が見受けられるようになった。これら医療・福祉施設におけるアートやデザインは患者のストレスを軽減し、気を紛らわせる効果が期待できる。とりわけ子どもは環境の影響を受けやすく、発達段階であるために成人とは異なる環境整備が必要であると言われている。特に子どもの療養環境においては不慣れた病院環境で治療を受けねばならず、両親から引き離される場面もあり、時には痛みを伴う治療に耐えねばならない⁽¹⁾。そのような子どもの心理的な負担を軽減する目的で子どもの療養環境にアートやデザインが取り入れられてきた。

一般に日本では医療施設におけるアート活動は「ホスピタルアート」と呼ばれている。その他には「ヒーリングアート」、「アート・イン・ホスピタル」、「アート・フォー・ヘルス」など同じような意味合いの語句が混在して使用されており、団体や組織の理念や成り立ちにより呼称が異なる。本報告では活動の範囲が医療施設だけでなく社会福祉施設での活動に及んでいるため、それら医療・福祉施設でのアート活動を「ヘルスケアアート⁽²⁾ (以下 HCA)」と呼称し使用することとする。

筆者の所属する研究室⁽³⁾では2000年から約20年間(2020年現在)に渡って、愛知県近郊を中心に医療・福祉施設において HCA の実践を行ってきた⁽⁴⁾。筆者も2011年から現在に至るまでこの活動に携わり、壁画のデザインからアート制作、学生の調整、患者や病院職員が参加できるアートワークショップを企画するなどの活動を行ってきた⁽⁵⁾。

今回報告する実践は2015年に竣工した富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにおける HCA である。施設新設の際、設計の段階から療養環境改善の目的で HCA が検討され、筆者はこのプロジェクトにおいてアーティストとしてデザインとアートの制作を担当した。

本報告では実践内容の報告に加え、2つの調査を実施した。壁画制作に参加した学生の意識調査^①と、HCA の意義に関する調査^②では設置から5年後に職員へのアンケート調査から施設に導入した HCA の意義を考察する。

2. HCA の実践

2-1 実践施設の概要

富山県リハビリテーション病院・こども支援センターは高度・専門的なりハビリテーション医療の提供および重症の心身障害児等の支援をする一体施設である（表1）。同施設のうち、こども支援センターを中心に HCA を設置した。同施設のリハビリテーション病院と併設されたこども支援センターでは医療型障害児入所施設（52床）に加え、児童発達支援センター（医療型40名、福祉型30名）や、日中一時支援、生活介護、放課後等デイサービスなどの様々な通所サービスを提供している⁽⁶⁾。

表1 実施施設の概要

	全体	こども支援センター
開院	H28.1	H28.1
延床面積	28,714.52m ²	5,696.83m ²
構造	地上5階	平屋建て
病床数	232床	52床

2-2 HCA の導入経緯

2012年12月、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの建築設計を請け負った設計会社が HCA の導入の検討を開始し、基本設計の段階で HCA の設置を前提とした設計を提案した。設計会社はこれまでに医療施設の設計の際にアートの導入を提案し、建築の一部として設置してきた経験がある。その後設計会社から大学に依頼があり、2013年4月に現地視察を行った。そこから HCA のコンセプトや設置場所、作品のイメージを決定。2013年7月病院関係者、設計者、サイン業者、大学、ACC と共にアート検討委員会を開催し協議を重ね、作品の種別や寸法、設置方法、数量を設定し積算した。2015年9月建築施工現場との日程調整をして作品の設置を行った。また、壁画制作に関しては筆者の所属する大学の学生と富山大学から学生ボランティアを募集し、合計9名の学生が参加した。建築施工現場に入るための手続きを済ませ5日間に渡りペイント作業を行い、2016年1月に開院となった。

2-3 HCA の内容

設置した HCA は平面表現と立体表現に大きく分類される。絵本以外は療養空間を装飾するための HCA である（表2）。設置した HCA はストーリーに沿ってエリアごとに配置されている（図1）。富山の地域性を考慮しキャラクター（カエル：周辺は田んぼでカエルが沢山生息、ニホンカモシカ：富山県獣、ライチョウ：富山県鳥）とストーリー（歌の下手なカエルのコエルがライチョウのライちゃんと迷子で泣いていたニホンカモシカのカモシーを家まで送り届ける旅に出る。虹を超える気球の旅を通してみんな少しだけ成長する物語）を設定した（表中①、図1）。保育所の廊下と食堂の天井には学生による壁画ペイントを行った。長い廊下が苦にならないようにアクリル絵具を使い森と虹を描いた（表中②・③、写真1）。こども支援センターの廊下には

約250m²に渡りデザインプリントで出力した壁紙を貼り、施設全体で物語を体験できるよう配慮し、より物語に誘引する目的で所々壁面彫刻を配置した(表中④・⑬、写真2・9)。エントランスの床はカエルの生息する池や川をイメージしてデザインされ、動物の足跡や魚の群のフロアシートで人の動線を誘導している(表中⑤・⑥、写真3)。天井高12mのエントランスの8角形の壁面には直接ペイントする事が困難だったため、ベニア板にペイントしたものを壁面に取り付けた(表中⑦、写真4)。エントランスには2階へつながる階段があり手摺下のアクリル板は目隠しのための雲のデザインフィルムを貼り付け(表中⑧、写真4)、エントランス壁面には富山県産の杉を使って物語に登場する「たいぼくさま」(大きな木のオブジェ)を設置した(表中⑬、写真8)。天井からは同じく富山県産の杉と和紙を使った気球と雲のモビールを吊り下げキャラクターの彫刻を乗せた(表中⑭、写真4)。風除室と浴室には1cm角のモザイクタイルアートを設置し(表中⑨、写真5)、病院CT検査室には検査中に天井を見上げることができるよう池の中から空を見上げるイメージでプラスチックシートに印刷した鴨やカエルのパネルを貼り付け、ペイントを施した(表中⑩、写真6)。富山県の地場産業である銅器を活用してキャラクターや富山県の動物であるオコジョのブロンズ彫刻を設置した(表中⑮・⑯、写真10)。またこのプロジェクトの集大成として全体のストーリーの絵本を制作した(表中⑪、写真7)。絵本は現在も施設で読めるよう受付に用意されている。

表2 設置したHCAの内容

分類	番号	HCA内容	設置場所	材料・材質	備考
平面表現	①	キャラクターデザイン	全体	—	デザイン：筆者
	②	壁画	2階保育室前廊下	アクリル絵の具	デザイン：筆者 ペイント：有志学生
	③	天井画	食堂天井	アクリル絵の具	デザイン：筆者 ペイント：有志学生
	④	プリント壁紙のデザイン	廊下壁面	プリント壁紙	デザイン：筆者、施工：業者
	⑤	床デザイン	エントランス	リノリウム	デザイン：筆者、施工：業者
	⑥	フロアシート	エントランス	PVC	デザイン：筆者、施工：業者
	⑦	壁面ペイントパネル	エントランス壁面	ベニア板に塗装	デザイン：筆者、施工：筆者
	⑧	ガラス面フィルム貼り	エントランス階段手摺	PET	デザイン：筆者、施工：業者
	⑨	タイルアート	風除室・浴室	タイル	デザイン：筆者、施工：業者
	⑩	天井アート	CT検査室	塩ビ板にプリント、石粉ねん土	デザイン：筆者、施工：筆者
	⑪	絵本	—	紙	絵：筆者、お話：筆者
	⑫	ストーリーボード	エントランス	塩ビ板にプリント	デザイン：筆者、施工：筆者
立体表現	⑬	壁面彫刻(小)	こども支援センター全体	樹脂粘土に着色	制作：筆者
	⑭	壁面彫刻(大)	エントランス階段	杉(県産材)	デザイン：筆者 木工：nandemono(木工アーティスト)
	⑮	気球のモビール	エントランス	杉(県産材)、和紙(八尾和紙)、FRP	キャラ立体：筆者 木工：nandemono(木工アーティスト)
	⑯	コエルの彫刻	こども支援センター入口	ブロンズ	制作：筆者
	⑰	オコジョの彫刻	入所エリア中庭	ブロンズ	制作：筆者

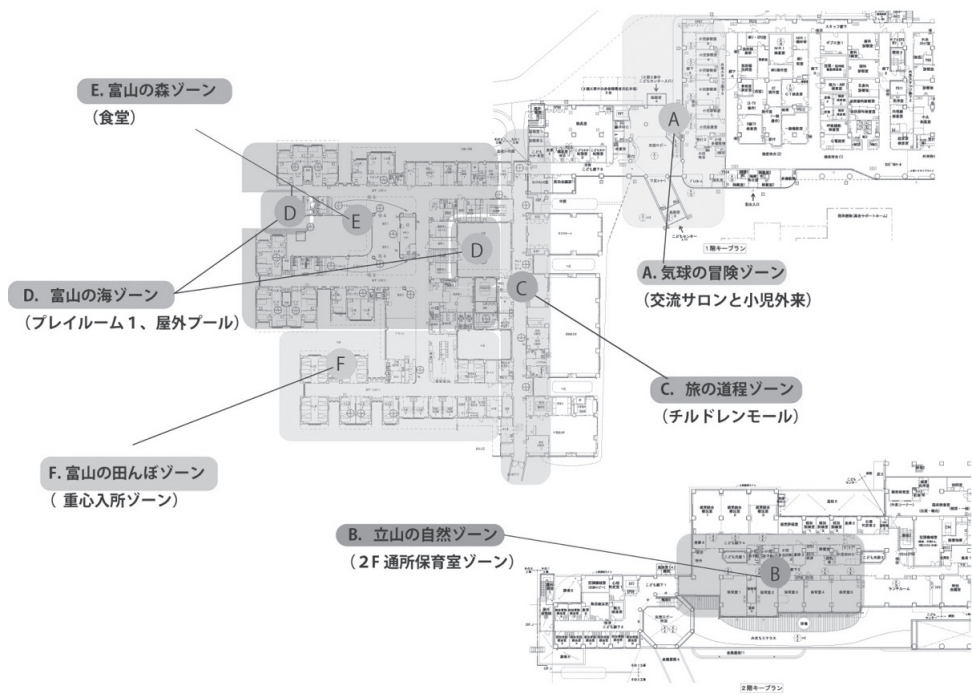


図1 HCAのエリア設定



図2 デザインしたキャラクター①



写真1 学生によるペイントの様子②③

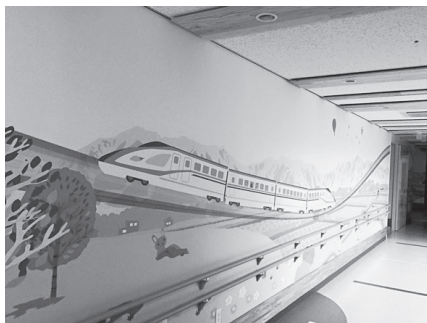


写真2 設置したプリント壁紙④



写真3 床のデザインとフロアシート⑤⑥



写真4 八角形のエントランスの壁面パネルとフィルム⑦⑧



写真5 タイルアート⑨

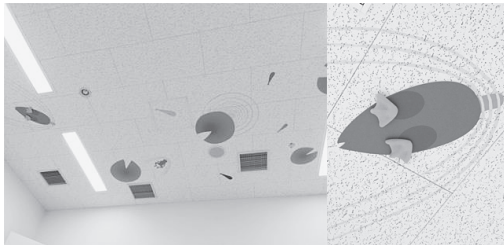


写真6 CT検査室の天井アート⑩

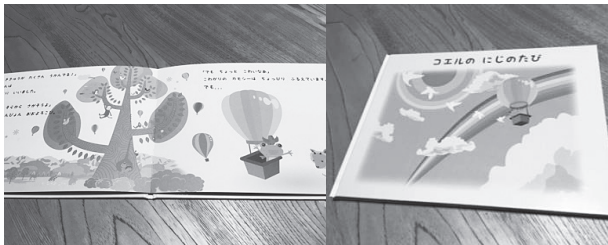


写真7 絵本⑪



写真8 壁面彫刻、モバイルストーリーボード⑫⑭⑮



写真9 壁面彫刻⑬

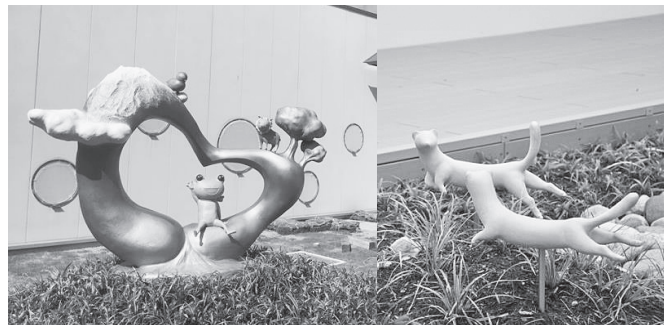


写真10 屋外彫刻作品⑯⑰

3. HCA の意義

3-1 HCA の意義に関する調査①

今回報告した事例に参加した学生を含め、これまでに壁画制作に参加したことがある学生にアンケート調査を行い壁画制作に関する意識調査を行った。25名から回答を得た。質問内容は、活動に対する意識と参加意義についてである。

(1) 調査結果

結果は92%の学生が「とても有意義」、4%の学生が「まあまあ有意義」であったとし、社会に貢献できる喜び、建物と一緒に作品が残る喜び、完成の達成感、色塗りの楽しさ、仲間とのコミュニケーションや作業に没頭する時間を楽しんでいることが分かった（図3）。

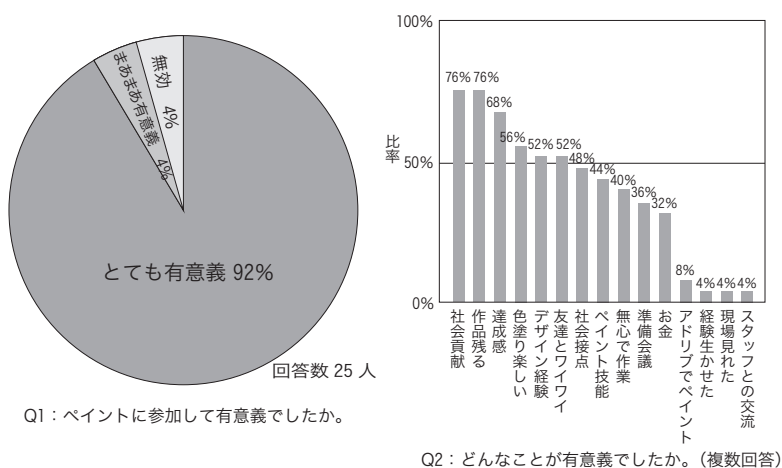


図3 学生に対するアンケートの結果

3-2 HCA の意義に関する調査②

こども支援センターに勤務する全職員を対象に、2015年に設置したHCA に関してのアンケート調査を行った。調査内容は回答者の属性、HCA の認知度、HCA の印象、患者にとっての効果、職員にとっての効果、病院にとっての効果、HCA の活用方法、HCA の改善点である。病院に勤務する担当事務職員を通してアンケートを配布し122名の回答を得た。

(1) 調査結果

i) 回答者の属性

回答者の性別の内訳は男性27名（22.1%）、女性95名（77.9%）であり、年齢は20代から70代まで比較的均等に分布している。回答者の職種は多様で看護師が一番多く38名（31.1%）、保育士19名（15.6%）、事務職員12名（9.8%）と続き多様な業種の人が施設で勤務している状況である（図4）。

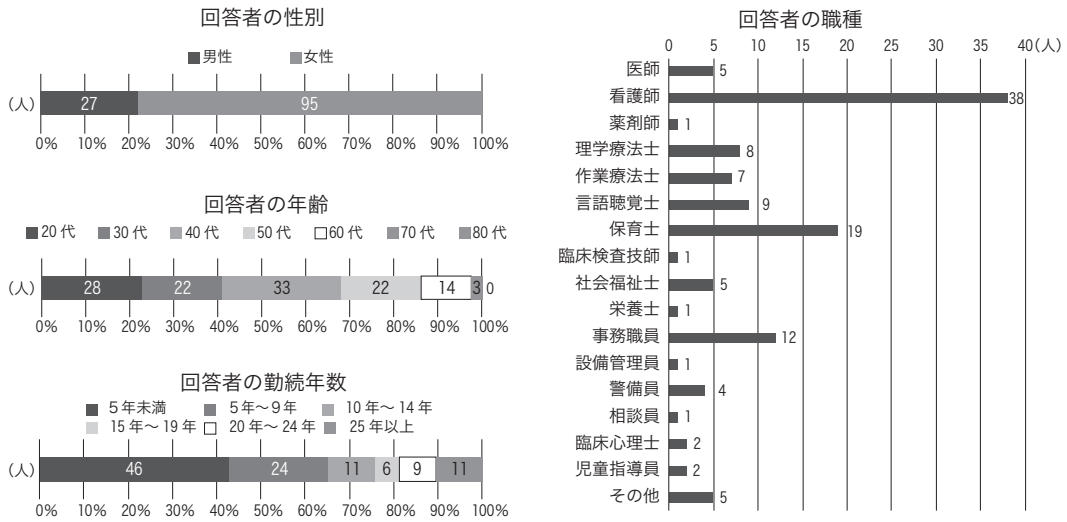


図4 回答者の属性

ii) HCA の認知

HCA の職員の認知に関して、設置されていること自体を知っていたかという問いに、「よく知っている」47名(38.5%)、「知っている」63名(51.7%)と回答し、約90%の職員が認知していた。キャラクターやストーリーなどHCAの内容を「よく知っている」32名(13.6%)、「知っている」43名(27.5%)と約41%が認知していた(図5)。HCAが設置された2015年以降に勤務した、勤続年数が5年未満の職員は46名おり、その認知は設置に関しては40名(87.0%)、キャラクターやストーリーに関しては27名(58.7%)が知っていると回答し、大きな差はない事からHCAが職員に認知されており、内容やストーリーも把握しやすい環境であることが推察できる。

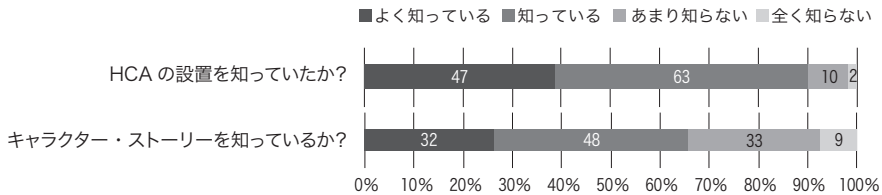


図5 職員のHCAの認知

iii) HCA の印象

病院職員のHCAに対する印象を調査した。HCAの内容が病院に相応しいかどうかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と答えた回答者は120名(98.4%)であった。設置したHCAを気に入っていると答えた回答者は113名(92.6%)で9割以上の職員に昇り、HCAが施設にふさわしく気に入られていることが読み取れる。院内にHCAが必要であると答えた回答者は112名(91.8%)で、9割近くの職員がHCAの必要性を感じている結果となった。病院の雰囲気よくなったと感じている職員は117名(95.9%)で、患者や家族も喜んで感じる職員は114名(93.4%)であった(図6)。この事から、設置したHCAの内容に満足しており、施

設にとって必要なものであるという認識を持っていることがわかる。患者にとっても職員にとっても HCA が病院の雰囲気より良くしていることが推察できる。

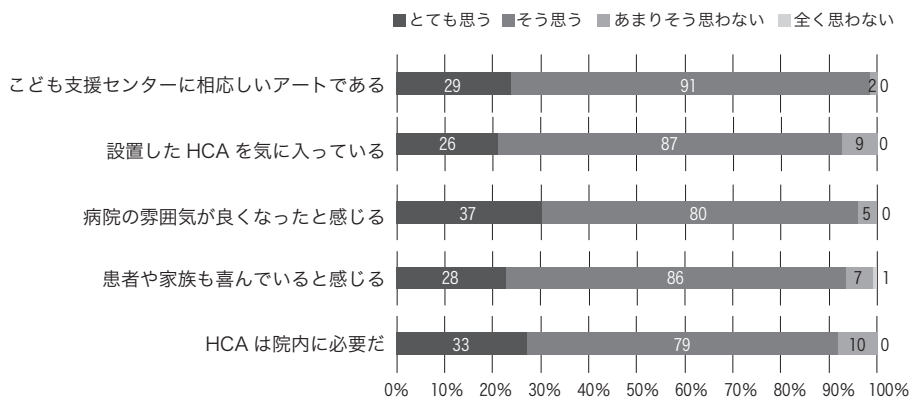


図6 職員の HCA に対する印象

iv) 患者にとって効果的だと思われる点

病院職員が感じている患者への HCA の意義として、患者の不安軽減につながっているかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と答えた回答者は 95 名 (77.9%)、気分転換につながっていると感じる回答者は 112 名 (91.8%) であった。実際の患者の行動として HCA を眺めている事があると認識している回答者は 100 名 (82.0%)、HCA をきっかけに会話していると認識している回答者は 79 名 (64.8%) であった。HCA が院内の目印になっていると答えた回答者は 66 名 (54.1%) であった (図 7)。HCA が患者の不安を軽減し、気分転換として HCA を眺め、時に会話のネタになり、目印として場所の認識を助けている場合もある事がわかった。

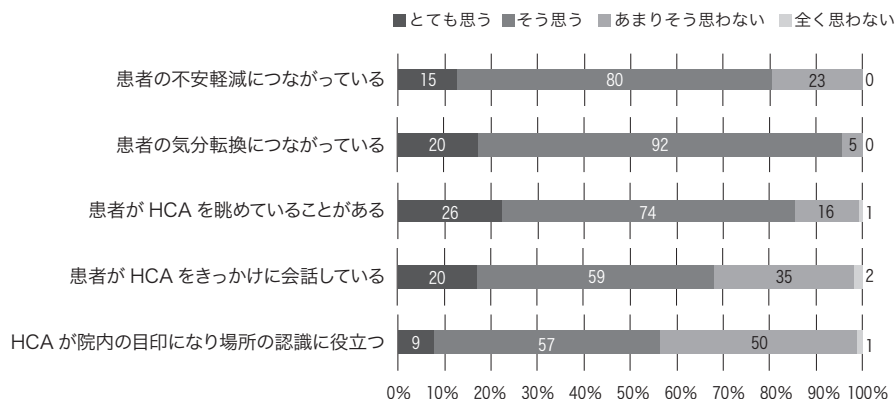


図7 職員が感じている HCA が患者にとって効果的だと思われる点

v) 職員にとって効果的だと思われる点

職員の心理的効果の面では、職員が HCA に癒されるかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と答えた職員は 95 名 (77.9%) で、HCA に励まされると回答したのは 60 (49.2%)、

職場が快適になったと感じる回答者は67名(54.9%)、HCAがあることで病院に愛着が湧いた回答者は78名(63.9%)であった(図8)。職員がHCAから癒しと励ましを得るとともに病院への愛着を増していることが推察できる。

職員の身体的な面では、長い廊下を歩くのが苦ではなくなったかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と答えた職員は56名(45.9%)、2階への階段が苦ではなくなった職員は54名(44.3%)であった(図9)ことから約半数の職員が負担の軽減を感じていることがわかる。

職員の実務的な効果の面では、HCAが道案内に役立っていると答えた職員は54名(44.3%)(図4-8)、HCAにより検査や訓練がスムーズになったと感じる回答者は63名(51.6%)であった(図10)。

職員の社会性に関する効果は、HCAによって患者との会話が生まれると答えた職員は90名(73.8%)、職員同士の会話が増えた回答者は40名(32.8%)、患者に優しくなった回答者は64名(52.5%)であった(図11)。HCAが患者とのコミュニケーションの助けとなっていることがわかる。

職務に向かう姿勢に関して、働きがいに繋がった回答者は33名(27.0%)、HCAのある現在の病院で今後も働き続けたいと思った回答者は45名(36.9%)、積極的な姿勢になった回答者は32名(26.2%)であり(図12)、多少ではあるが職務のモチベーションを向上させている。

またHCAに対してより興味や関心が増した職員は69名(56.5%)であり(図13)、半数の職員がHCAへの理解と興味につながっている結果となった。

HCAが職員にとって心理的にも身体的にもポジティブな変化を与えていることが読み取れる。

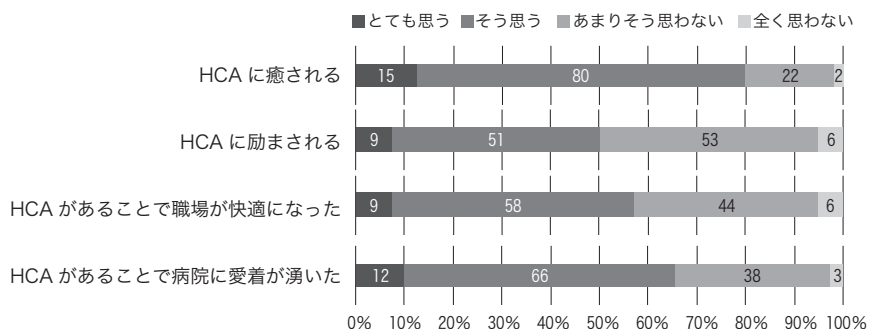


図8 職員の心理的な効果

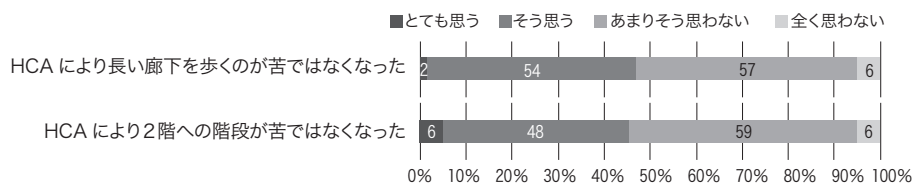


図9 職員の身体的な効果

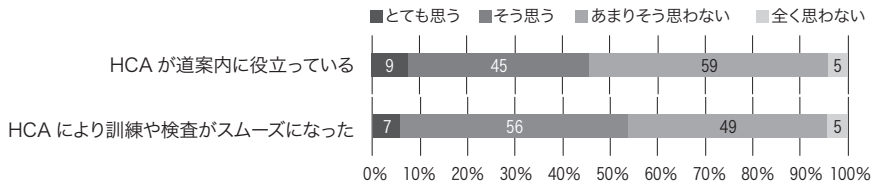


図10 職員の実務的な効果

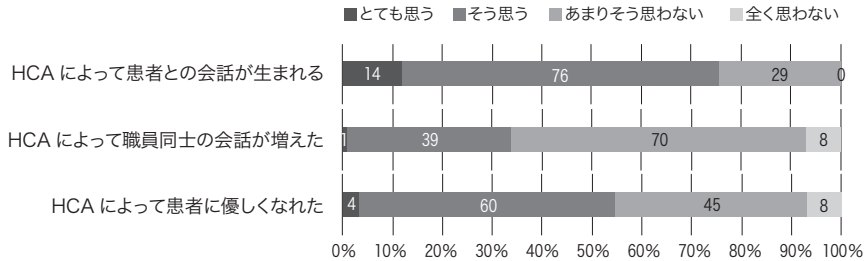


図11 職員の社会性についての効果

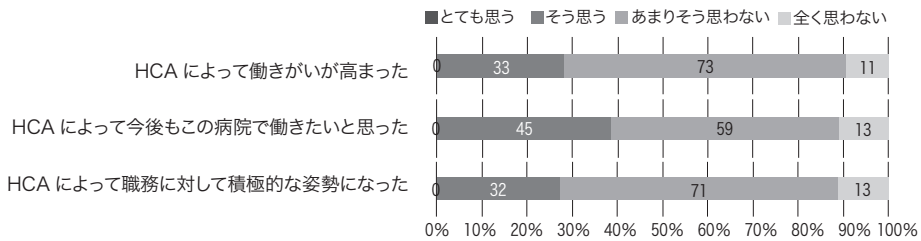


図12 職務に向かう姿勢に関して

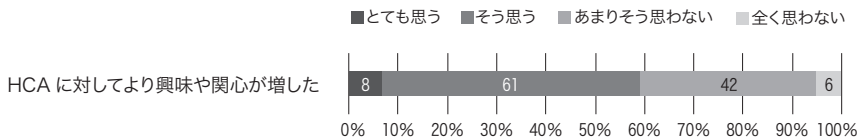


図13 HCA に関する興味関心

vi) 病院にとって効果的だと思われる点

病院にとって HCA が病院のアピールになったかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と答えた職員が 94 名 (77.0%)、患者を歓迎する姿勢を表現できたと回答したのは 98 名 (80.3%)、病院のオリジナリティに繋がっていると回答したのは 107 名 (87.7%) であった (図 14)。HCA が病院のアピールやオリジナリティとして機能しているといえ、患者を迎える姿勢を表明することで患者から選ばれる病院になるという意義も見出せた。

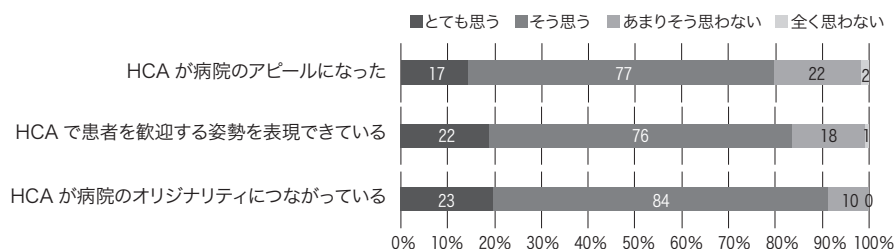


図14 HCA が病院にとって効果的だと思われる点

vii) HCA の運用

どのように HCA を活用しているかを複数選択で回答してもらった結果、会話のきっかけ 59 名 (48.3%) や気の紛らわし 41 名 (33.6%)、名刺や広報などの印刷物で活用 20 名 (16.4%)、病院のアピール 20 名 (16.4%) で活用されていた。キャラクターのデザインを活用している職員は 15 名 (12.3%) で、季節の行事 5 名 (4.1%)、道案内 25 名 (20.5%) などに活用していることが判明した (図 15)。自由記述からリハビリテーションの際キャラクターを見つけに行くなど患者のモチベーションとなる、施設見学の際には HCA が話のネタとなる、職員の対外的な発表のスライドにキャラクターを加えているなど、病院のアピールやリハビリテーションのモチベーションとして活用している職員も見受けられた。

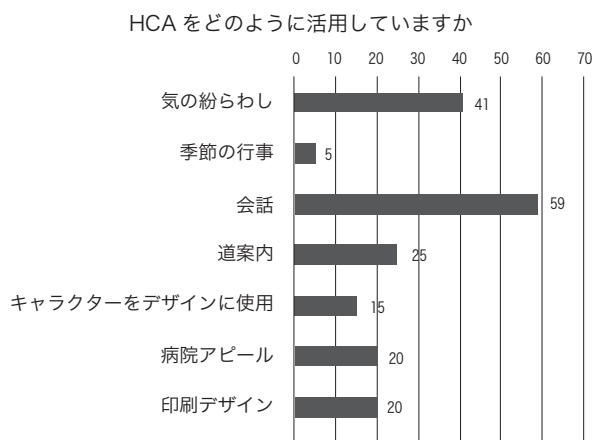


図15 HCA の活用や工夫

viii) HCA の改善点

一方で HCA の内容や質を改善すべきであるかという質問に対して「とても思う」「そう思う」と回答した職員は 24 名 (19.7%)、HCA の汚れや傷が気になると答えた職員は 28 名 (23.0%)、HCA に変化がなく飽きると回答したのは 29 名 (23.8%) だった (図 16)。職員の約 2 割が HCA に変化がなく、内容や質を改善すべきであると感じていた。また、経年劣化による汚れや傷が気になる職員もあり、メンテナンスの必要性を感じる。

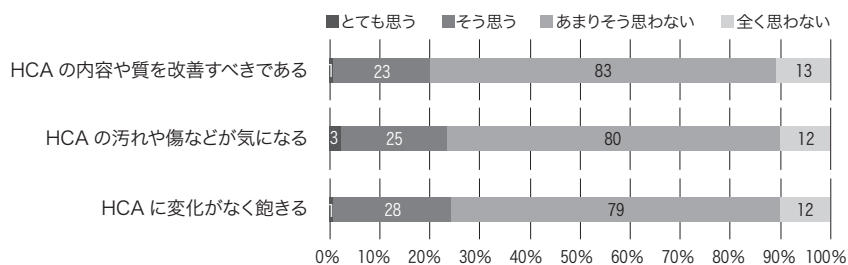


図16 HCAの改善点

4. まとめ

今回の実践報告は建築設計の段階からHCAが導入されたため、建築費の一部としてアートの子算が確保された恵まれた条件の事例である。HCAを取り入れた施設は建築的にも評価され、第48回富山県建築賞で優秀賞を受賞する結果となった。

とりわけ注目すべきは愛知県・富山県合同の学生ボランティアによる壁画制作である。大学の地域貢献の観点からも、学生の社会経験の観点からも有意義なものであった。また、制作後キャラクターや作品の著作権をフリーにした事で、病院職員が名刺、パンフレット、季刊誌、ホームページなどに自由に活用しており、病院のシンボルとして機能していることがわかった。HCAが設置後に病院職員により活用されることで、病院への更なる愛着につながっていると推察できる。

設置から5年後のアンケートでは、HCAを認知している職員は7割を超え、勤続年数が5年未満の職員にも同程度の認知されていることから職員にもHCAが浸透していることが伺える。

職員の多くはHCAに良い印象を持っており、HCAによって患者や職員にとっても良い雰囲気を出しているようだ。子ども患者にとっては不安軽減に繋がり、HCAを眺めつつ会話がなされるなど気分転換に繋がっているといえる。また特別な空間演出から目印として場所の認識を助けている場合もある事がわかった。

職員にとってはHCAがある事で病院に愛着が持て、HCAをきっかけとして患者とコミュニケーションを取る事ができ、患者に対して優しくなれるなど患者の満足度の向上につながる意義があるといえる。そしてHCAに対してより関心が増したことも、今後のHCAの普及という点で大きな意義であった。

HCAの導入は、子ども患者にとってより良い環境を作るとともに、病院のアピールや病院のオリジナリティとなり、患者を迎える姿勢の表明や病院の理念を反映するという意義が見出せた。以上、子どもの療養環境におけるHCAの意義は以下のようにまとめることができる。

壁画制作（学生）について

1. 学生は作品が残る喜びと達成感を感じ、楽しみながら社会貢献できる設置したHCAについて
2. 癒しや不安軽減など子ども患者にとって望ましい環境を作る
3. 子ども患者のリハビリテーションのモチベーションとなる

4. 子ども患者とその家族、患者と職員のコミュニケーションの助けとなる
5. 目印として場所の認識を助ける
6. 職員の労務軽減、モチベーション向上の可能性
7. 病院に愛着を与え、病院のオリジナリティにつながる

今後の課題としては、自由記述から作品の清掃・補修などの必要性の指摘があった。メンテナンス方法の明確化を行い、清掃や補修を定期的に行うことが必要である。また、デザイン（印刷物など）や設置したHCAに飽きるという意見から、季節変化を感じるデザインや新たなデザインを追加するなど新鮮さと季節感を加えるなどして変化を与えることが課題である。

注・参考文献

- (1) D. J. ミラー他著『病める子どものこころと看護』, 医学書院, 1998年
- (2) ヘルスケアアートとは医療施設や福祉施設などで行われるアート活動である。絵画・彫刻・工芸・書・写真などのアート作品や音楽・演劇などのアート活動, 建築デザイン・インテリアデザイン・エクステリアデザインなどの環境デザインがある。医療・福祉の分野で社会的健康に関するクリエイティブな活動全般を指す。
- (3) 現在、筆者は名古屋市立大学芸術工学研究課博士後期課程に所属。鈴木賢一研究室でアートによる医療福祉施設の医療環境改善に関する研究を行っている。
- (4) 拙稿, 鈴木賢一: 大学生による医療・福祉施設におけるヘルスケア・アートの取り組みに関する研究—建築計画研究室による18年間の継続的実践を通じて—, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第56号, 361~364頁, 2019年
- (5) 拙稿, 鈴木賢一: ホスピタルアート&デザインチーム「はみんぐ」の活動報告, 子どもの療養環境研究会抄録, 第17号, 26~27頁, 2016年
- (6) 富山県リハビリテーション病院・こども支援センターホームページ
<https://www.toyama-reha.or.jp>

(受理日 2021年1月6日)